

日原(にっばら)鍾乳洞案内の多言語化と日本鍾乳洞サミットの開催 ～人 森林(もり) 清流 おくたま魅力発信!～ 東京都奥多摩町

奥多摩町の概要

東京都の西北端に位置し、都全体の約10分の1の面積(225.53km)を有し、全域が秩父多摩甲斐国立公園に属し、その94%が森林の自然豊かな地域。

登山、カヌー、自転車ツーリング、キャンプ、溪流のイワナ・ヤマメ釣りなどを目的として、東京都民を中心に年間170万人以上の観光客が訪れており、これに加え、近年町ではその特性を最大限活かした政策として、森林セラピーの「基地」と「ロード」の認定を受け、この事業を積極的に推進している。

日原鍾乳洞:東京都指定天然記念物

(交通:JR青梅線奥多摩駅から日原方面行バスで20分)

日原川支流の小川谷に位置し、洞内は大別すると旧洞と新洞に分かれ温度は年間摂氏11度で夏はきわめて涼しく冬は暖かである。通路はよく整備され電灯設備も完備しているからお年寄りからお子様まで容易に探勝することが出来る。特に新洞は石筍、石柱の発達著しく、乳石の乱立は荘厳雄大、鍾乳石の豊富さとその美観の素晴らしさは、関東随一といわれる規模を誇り、荘厳な雰囲気漂わせる白衣観音をはじめ、巨大なカエルを思わせるガマ岩、時の彼方に引き込まれそうな天井知らずなど、幻想的な景観を繰り広げている。約40分の洞内めぐりであり、平成8年8月には大宮殿に相応しい自然の音を奏でる水琴窟も設置され、厳かな鍾乳洞の雰囲気の中で優雅な音を楽しむことができる。

また、平成25年度には洞内のライトアップも実施しており、近年増加している外国人旅行者からも神秘的とたいへん好評。

◎多言語対応の推進として

1. 今までに…奥多摩町総合観光パンフレットの多言語化(日本語・英語・繁体中文・ハングル語)

2. 平成27年度年は…「日原鍾乳洞」への外国人観光客の増加⇒近年、中国をはじめ東南アジア方面からの来遊者が全体の2割近くに達する日もある。

ア)第28回 日本観光鍾乳洞サミット(※)を奥多摩町で開催したことに伴い、「東京オリンピック・パラリンピックを契機とする観光鍾乳洞への外国人観光客誘致」をテーマに意見交換を行い、当町の取り組みを含めた外国人客を増やすための方策について、9洞が連携することを確認し、鍾乳洞の素晴らしさを伝えるための情報発信など受入れ環境などの整備について「共同宣言」を行った。

⇒増大する外国人旅行者のサービス向上を図るために、構成団体の総合案内パンフレット「日本鍾乳洞九選ガイド」の多言語化(日本語・英語・簡体中文・繁体中文・ハングル語の5種類)を実施し、それぞれの施設に配備

イ)奥多摩5駅(奥多摩・白丸・鳩の巣・古里・川井)への公衆WiFi設置による地域観光情報の提供

ウ)観光案内所に英語対応スタッフの配置

3. 2020年までの鍾乳洞での取り組み計画は…スマートフォンを活用した洞内案内及びガイドの実施検討

(※)日本観光鍾乳洞サミット…平成27年10月2日に、日本観光鍾乳洞協会が主催する「第28回 日本鍾乳洞サミット in 奥多摩」として開催。日本観光鍾乳洞協会…全国9か所(岩手県龍泉洞から鹿児島県昇竜洞で構成)の観光鍾乳洞・関係自治体等で構成し、観光鍾乳洞の保存と観光客の誘致拡大を目的に設立され、毎年日本鍾乳洞サミットを開催する他、スタンプラリー、ガイドブック等を作成して鍾乳洞の魅力や観光をPR



LEDカラー照明による、洞内ライトアップの様子。イルミネーションは数分間隔で変化する。



2020年に向けての全町的な取り組み

さらに、2020年に向けた全町的な計画として、

ア)街中観光案内板の多言語化とピクトグラムの導入

イ)日本一観光公衆トイレの綺麗なまちをめざし、機能面(ウォシュレット・暖房便座)と衛生面(清掃作業員のスキルアップと清掃回数の増加)の充実強化

ウ)町内5か所の溪流釣場のインバウンド対応、「奥多摩やまめ」の増産及び加工の強化